

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02001

研究課題名(和文) 国民性および企業特性がIFRSの会計情報に及ぼす影響に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International comparative study on the influence of national character and firm's characteristics on IFRS accounting information

研究代表者

向 伊知郎 (Mukai, Ichiro)

愛知学院大学・経営学部・教授

研究者番号：20308761

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、各国の会計制度の特性とそれらの国々の企業(集団)の特性を評価して、世界の資本市場への参加者が国際財務報告基準(IFRS)の適用企業の財務情報を用いて経済的意思決定を行う分析モデルを構築、検証して、提言することにある。本研究では、計量的分析方法と非計量的分析方法を用いて、各国の会計制度の特性を、国家の特性(国民性)並びに経済及び法律といった制度的環境から評価して、かつ各国の企業(集団)の特性を、事業活動、資金調達活動、並びに経営者及び従業員の民族構成から評価して、それらの特性が会計情報の意思決定有用性に異なった影響を及ぼすことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多くの国際会計の文献およびIASBIは、会計基準の国際的統一・収斂が、財務諸表の比較可能性を高めて、意思決定に有用な情報を提供すると述べられてきた。しかし本研究では、各国及び各企業には異なった特性があることから、財務情報を用いて何らかの意思決定を行う場合には、それらの特性を考慮して分析する必要があることを明らかにしている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an analysis model for international comparison accounting research. This survey emphasizes that national character and firm's characteristics of each country affect accounting information of each firm. Thus, the national character is assessed using the data of the World Value Survey Association, and the firm's characteristics are evaluated by financial information. As a result of analysis, decision-making to use financial information needs to consider different national character and different firm's characteristics.

研究分野：国際会計

キーワード：国際財務報告基準(IFRS) 国民性 ソーシャル・キャピタル 国際比較 のれん

1. 研究開始当初の背景

国際会計基準審議会(IASB)の調査では、世界166カ国中157カ国において、国際財務報告基準(IFRS)の強制または任意適用が行われている。日本においても、2010年3月期決算から連結財務諸表の作成にIFRSの適用が容認されていて、IFRSの適用が連結財務諸表の国際的比較可能性を高めて、日本の企業の国際的競争力及び資金調達力も高めると考えられている。そのような中で、日本および海外では、IFRSの適用が財務諸表の比較可能性を高めて、情報利用者の意思決定に有用な情報を提供するかに関する研究が数多く行われるようになった。

一方で、国際会計の分野では、歴史的に会計制度の国際比較研究、IASBの前身である国際会計基準委員会(IASC)が進めてきた会計基準の国際的調和の必要性と効果に関する研究、及び多国籍企業の会計研究が行われていて、各国の会計制度の構築過程では、さまざまな会計環境が影響を及ぼしていて、統一された会計基準の適用が、必ずしも財務諸表の比較可能性を達成するものではないことが明らかにされてきた。

本研究では、すでに既定路線となったIFRSへの会計基準の収斂と国際比較会計研究との関係を、国民性及び企業特性に焦点を当てて研究するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、各国の会計制度の特性とそれらの国々の企業(集団)の特性を評価して、世界の資本市場への参加者がIFRSの適用企業の財務情報を用いて経済的意思決定を行う分析モデルを構築、検証して、提言することにある。IFRSの特徴の1つとされる原則主義に基づいた会計基準は、会計実務を行う経営者の判断を必要とし、かつその結果作成された財務諸表を用いて意思決定を行う情報利用者にも解釈力が求められる。

本研究では、会計情報の作成者および利用者がともに人間であることに着目して、国民性及び企業特性と会計情報との関係について分析するための分析モデルの構築を行うものである。

3. 研究の方法

研究は、各国の国民性と企業特性が会計情報にどのような影響を及ぼすかについて、計量的及び非計量的に分析する。具体的に、これまで国際会計の分野で数多く用いられてきた1960年代から70年代のデータを用いたホーフステッド(Hofstede)の社会的価値に代わる国民性の評価を、世界価値観調査協会(World Values Survey Association: WWSA)の世界価値観調査(World Values Survey: WWS)をもとに、因子分析と構造方程式モデルを用いることで、世界53カ国の国民性を測定する。その後、各国の国民性の測定値と各国企業の財務情報を、因子分析、重回帰分析等を用いて実証的に国民性が各国企業の会計情報とどのような関係にあるかについて明らかにする。

4. 研究成果

多くの国際会計の文献およびIASBは、会計基準の国際的統一・収斂が、財務諸表の比較可能性を高めて、意思決定に有用な情報を提供すると述べられてきた。しかし本研究では、各国及び各企業には異なった特性があることから、財務情報を用いて何らかの意思決定を行う場合には、それらの特性を考慮して分析する必要があることを明らかにしている。

具体的に、下記のような研究成果が得られている。

- (1) 国民性の構成要素は、ソーシャル・キャピタルの構成要素と言われる信頼、規範およびネットワークとの関連から説明された。信頼は、「社会制度に対する信頼」と「社会への信頼(安心感)から感じる幸福感」から説明された。規範は、「命や性に対する規範」、「宗教への意識(信心深さ)」および「法や規律への規範」から説明された。ネットワークは、「政治的活動への参加といった意欲」から説明された。これらの構成要素の測定値は、国が異なることで異なっているが、すべての測定値が高い数値を示したり、低い数値を示す国は存在しなかった。また、1990年代から2000年代にかけて、構成要素の測定値およびそのランクが、大きく変化する国が数多く存在した。その中で、地域によってその測定値および変化に特徴があることも明らかになった。
- (2) 会計基準の相違と利益の質の変化について国別に分析した結果では、自国の会計基準を適用している企業よりも、IFRSを適用している企業の方が、一般的に利益の質は高く示された。一方で、イギリスでは、自国の会計基準とIFRSの適用企業との間で、利益の質に大きな相違はなかった。カナダでは、アメリカの会計基準の適用企業において、利益の質は最も高く示された。その中で、自国の会計基準、IFRSおよびアメリカの会計基準の適用企業のいずれにおいても、日本の企業における利益の質が最も高く、それに次いでイギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、カナダ、およびオーストラリアの順であった。特に、日本の企業の利益

の質は、いずれの会計基準の適用企業においても最も高く、かつその他の国における IFRS の適用企業およびカナダにおけるアメリカの会計基準の適用企業よりも高かった。そこで、会計基準に関するダミー変数を加えて、利益の質の変化への影響分析を行った。分析結果では、自国の会計基準と IFRS との相違が、利益の質に影響を及ぼしている国と、及ぼしていない国に分かれた。これは、利益の質の変化および差異が、会計基準の相違だけでは説明できないことを示唆している。次に、国家に関するダミー変数を加えて、自国の会計基準の適用企業および、IFRS の適用企業をまとめたデータを用いて、利益の質の変化への影響分析を行った。分析結果では、いずれの分析でも国家に関するダミー変数が統計的に有意であると示された。そこで、最後に、国家に関するダミー変数に代えて、ソーシャル・キャピタル概念をもとに測定した各国の国民性の評価を用いて、利益の質への影響分析を行った。分析結果では、国民性を表す信頼性、宗教的規範および政治的ネットワークのすべての構成要素が、利益の質に影響を及ぼしていることが明らかになった。具体的には、利益の質は、信頼性が低いほど高く、宗教的規範が高いほど高く、政治的ネットワークが低いほど高いことが明らかになった。

- (3) IFRS の適用企業における株主資本コストに、各国の国民性がどのような影響を及ぼしているかについて分析した結果では、IFRS への変更が財務情報に及ぼす影響を考慮することで、IFRS の適用による資本コストへの影響は国によって異なったものとなることが明らかになった。これは、仮に会計基準が統一されても、投資者の行動は国民性の影響を受けて異なることから一律ではないという考え方から支持される。そこで、資本コストが異なる原因について、国民性が資本コストに及ぼす影響から分析した。国民性は、ソーシャル・キャピタルの 3 つの構成要素と言われる信頼、規範およびネットワークから測定した向[2017d]を参照して、社会的信頼指数、宗教的規範指数および政治的ネットワーク指数を用いた。分析結果では、社会的信頼が高い国において資本コストは高くなり、宗教的規範が低い国において資本コストが高くなることが明らかになった。なお、政治的ネットワークが資本コストに及ぼす影響は必ずしも明らかでなかった。本稿では、資本コストを、投資者が資金提供する上で要求する投資収益率として推定している。社会的信頼が高ければ企業の成長の可能性が高まり、投資者は企業に対して高い収益性を期待する。宗教による社会的規範が高い国では、投資者は企業に対して高い収益性を期待しないことになる。したがって、社会的信頼が高く、宗教的規範が低い国において、資本コストは高くなる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 向 伊知郎	4. 巻 第27号
2. 論文標題 「国民性の変化と新たな評価～53カ国のソーシャル・キャピタル・データを用いて～」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『経営管理研究所紀要』（愛知学院大学）	6. 最初と最後の頁 53-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 向 伊知郎	4. 巻 第33巻
2. 論文標題 「のれんの償却は必要か？～減損のみアプローチの正当性～」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『会計・監査ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 90-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mukai, Ichiro	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 Measuring National Character Toward Developing A Research Method for International Accounting Studies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Economics and Business	6. 最初と最後の頁 919-933
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31014/aior.1992.02.03.139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 向伊知郎	4. 巻 26
2. 論文標題 「国民性と国際的会計基準適用企業の資本コスト」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『経営管理研究所紀要』（愛知学院大学）	6. 最初と最後の頁 53-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 向伊知郎	4. 巻 -
2. 論文標題 「国民性が利益の質に及ぼす影響の国際比較」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代会計の基礎と展開』	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 向 伊知郎
2. 発表標題 統一論題「非財務情報の開示と企業価値」(座長解題)
3. 学会等名 日本経済会計学会第37回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mukai, Ichiro
2. 発表標題 Differences in Internal Rate of Return of Firms Applying International Financial Reporting
3. 学会等名 International Conference on Advances in Business and Economics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mukai, Ichiro
2. 発表標題 Measurement of National Character for International Comparative Accounting Studies
3. 学会等名 2nd Global Conference on Multidisciplinary Academic Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------